
[た よ り]

常任理事会だより

山川智之

本稿では、前号で報告後、平成17年11月18日、12月13日、平成18年1月13日、1月27日、2月24日の計5回開催された常任理事会の内容のうち主なものをお伝えするとともに、日本透析医会の主な活動についてご報告します。

1. 平成18年度診療報酬改定に対する対応

平成18年度の診療報酬改定は2月15日、「中央社会保険医療協議会（中医協）」の答申をもって決着しました。透析関連では、夜間・休日加算および慢性維持透析患者外来医学管理料の引き下げと、外来の人工腎臓点数へのエリスロポエチン（EPO）の包括化がなされたのはご承知の通りです。

2月の改定内容決定に至るまで日本透析医会は、今回の改定への対応に多くの時間を費やしてまいりました。会員の皆様方には、十分なご意見を拝聴する時間がなく、またご報告も十分でなかったことを紙面を借りてお詫び申し上げます。会員の皆様には、すでに会長名で今回の診療報酬改定の対応についてのご報告を書面にてさせていただいており、重複するところもありますが、本稿でも透析医会の対応の概略を述べさせていただきます。

平成17年11月には、日本医師会との話し合いを経て、日本透析医学会などの関係諸団体の要望内容にも考慮し、例年同様保険局医療課長あてに要望書を提出しました。その内容は、①人工腎臓点数の時間区分復活、②透析液清浄化加算の新設、③慢性維持透析患者医学管理料の包括内容および点数の見直し、でありました。しかし、今回の改定は平成14年度改定の大幅な引き下げを上回ることも予想されたため、①（平成14年度改定のような）急激な引き下げは施設運営を困難にすること、②技術料については下げることなく、時間区分を復活していただきたいこと、③ダイアライザーや薬剤などの透析関連の医療費を下げる場合でも、透析の質が下がらない工夫が必要である、などのお願いを要望書とは別にしました。

平成17年12月には、政府が平成18年度診療報酬改定を全体で過去最大の3.16%引き下げとすることと決定し、今回の改定がますますって厳しい内容になることがはっきりしてきました。実際に平成18年1月初旬には、夜間・休日加算を廃止する、という情報が表面化し、これに対し透析医会として、特に夜間加算の廃止は、透析施設の夜間透析廃止を促すことになり、患者のQOL低下をきたす可能性が高いことを指摘し反対の意思表示をしました。また中医協の診療側委員、全腎協の強い抗議もあって、廃止は文言上撤回されました。

2月3日には、中医協で人工腎臓点数にEPOが包括化されることが明らかになりました。これに対し透析医会は次の理由で反対をしませんでした。①透析本体から削減される金額は決まっていると考えられ、EPOが包括化されなかった場合、人工腎臓点数が削減されることは確実であり、これは透析医療の将来を考えればきわめて問題である、と判断したこと、②包括化された人工腎臓点数によっては、透析の質を低下させずにEPOの使用量を減らすことで経営を維持することができる、などであります。

2月第2週には、EPOを包括化した点数の情報を入手しました。従来のEPOの使用量に比し、不当に低い点数とは言えず、むしろ透析方法などによって、診療の質を下げずにEPOの使用量を減らすことも可能であり、包括化がされずに人工腎臓点数が削減されることによる現状および将来への影響を考えれば、むしろ包括化が望ましいと判断し、保健局医療課長にEPOの包括化を進めていただく旨の要望書を提出し、日本医師会にも同様のお願いをしました。

結果として、冒頭に述べたように外来人工腎臓点数にEPOが包括化され、2,250点（従来から290点の上乗せ）となり、入院等出来高の人工腎臓点数は据え置きとなったのはご承知の通りです。

以上、日本透析医会の今回の診療報酬改定に対する対応の概略を述べました。ダイアライザーの価格引き下げや夜間・休日加算の引き下げなどの影響が小さくないことは承知しておりますが、人工腎臓点数のEPO包括化による上乗せは概ね週3回1,500単位に相当し、EPOの投与を要しない患者（全国平均で16%）がおられることも踏まえれば、平均的な外来透析においては大きなマイナスになるものではなく、鉄剤の適正使用、透析液の清浄化や、十分な透析量の確保などによって、EPOの使用を減少させることにより、ダイアライザー価格引き下げや夜間・休日加算の削減などのマイナス要因を埋める原資にもなりえます。透析のみならず医療費削減の圧力が強い中での対応であったことをご考慮いただき、今回の対応についてご理解をいただきたく、また日本透析医学会の腎性貧血治療ガイドラインに従った治療、また薬事法に従った適正な薬剤投与をお願いする次第です。

なお、このEPOの包括化の影響については、厚生労働省は中医協医療技術評価分科会において、専門的観点から検証するとしています。なんらかの形で検証の調査がされることになると思います。つきましては是非ご協力を賜りますようお願いいたします。

2. 日本財団助成「災害時医療支援船運用計画策定と実施」事業など

以前よりお伝えしているように、透析医療の災害時における船舶による支援の可能性について検討する目的で、日本透析医会が中心となり、日本透析医学会・神戸大学海洋学部・災害医療連絡協議会の協力の下に、日本財団助成「災害時医療支援船運用計画策定と実施」事業を進めています。この事業の一環として、1月14日には神戸で、大規模災害発生により、被災透析施設や支援施設で医療材料や医薬品が不足する事態になった場合の、医薬品メーカー、医療材料メーカーなどの関連企業と医療機関の連携および海上輸送を含む物品輸送の問題点について検討する目的で、「透析医療資機材輸送懇談会」を開催しました。医薬品メーカー、医療材料メーカーにもご参加いただき有意義な議論が行われました。

また、2月12日には、東京お台場の船の科学館におきまして、「災害時医療支援船構想報告講演会」を開催しました。テーマは、「首都直下型地震と医療」とし、これまでの阪神地域における災害支援船運用検証航海の報告とともに、行政担当者として東京都福祉保健局医療政策部の丸山浩一

氏、内閣府防災担当の丸山直紀氏をお招きし、東京直下型地震に備えた医療および行政の対応についてのご報告をいただき、231名の参加者とともに活発な議論が行われました。お忙しいところご参加いただいた方々におきましては紙面にてではありますが感謝申し上げます。

日本財団助成事業ではありませんが、この講演会の前日の2月11日には、仙台で開催された第11回集団災害医学会において、日本透析医会医療安全対策委員会の杉崎弘章、災害時透析医療対策部会の赤塚東司雄、山川智之の3名による「災害時の慢性疾患を考える」と題した教育セミナーをさせていただきました。災害時の透析医療支援における問題点、および日本透析医会としての対応と今後の展望を中心にお話ししました。

3. 透析医会ホームページ新着情報メールサービス開始

2月1日より、会員向けに日本透析医会のホームページ新着情報のメールでのお知らせサービスを開始しました。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。以前より、ご会員の方々より透析医会からの情報が少ないあるいは遅い、とお叱りも受けておりますが、迅速で的確な情報発信を目指し、今後も努力していきたいと考えています。

学会ご案内

●第 69 回 北海道透析療法学会学術集会

日 時：平成 18 年 5 月 14 日（日）
学会長：大平整爾（札幌北クリニック）
会 場：札幌コンベンションセンター（札幌市）
問合せ：〒060-0001
北海道札幌市中央区北 1 条西 7-3 おおわたビル 2F
北海道透析療法学会 事務局
TEL/FAX 011-261-2033

●第 17 回 日本サイコネフロロジー研究会

日 時：平成 18 年 6 月 4 日（日）
会 長：平賀聖悟（三島社会保険病院）
会 場：静岡県三島市・東レ研修センター（三島市）
問合せ：〒411-0801
静岡県三島市谷田字藤久保 2276
三島社会保険病院 透析センター（腎臓内科部長：山田敏生）
TEL 055-975-3031 FAX 055-973-3647
E-mail psycho17@mishimahp.jp

●第 49 回 日本腎臓学会学術総会

日 時：平成 18 年 6 月 14 日（水）～16 日（金）
総会長：東原英二（杏林大学医学部泌尿器科教室）
会 場：京王プラザホテル（新宿区）
問合せ：〒181-8611
東京都三鷹市新川 6-20-2
杏林大学医学部（泌尿器科教室：奴田原紀久雄）
TEL 0422-47-5511（内線：5815） FAX 0422-47-7553
E-mail jsn49@convention.co.jp

●第 41 回 日本小児腎臓病学会学術集会

日 時：平成 18 年 6 月 22 日（木）～24 日（土）
会 長：都築一夫（社会保険中京病院）
会 場：名古屋国際会議場（名古屋市）
問合せ：〒457-8510
名古屋市南区三条 1-1-1
社会保険中京病院（小児科：山田晃郎）
TEL 052-692-5220 FAX 052-691-7151
E-mail JSPN4106@chukyo-hosp.jp

学会ご案内

●第51回 日本透析医学会学術集会・総会

日 時：平成18年6月23日（金）～25日（日）
 会 長：斎藤 明（東海大学医学部）
 会 場：パシフィコ横浜（横浜市）
 問合せ：〒259-1193
 神奈川県伊勢原市望星台
 東海大学医学部 腎・代謝内科 斎藤研究室内（角田隆俊）
 TEL 0463-90-2083 FAX 0463-90-2084
 E-mail jsdt-51@m.med.u-tokai.ac.jp

●第22回 腎移植・血管外科研究会

日 時：平成18年7月7日（金）～8日（土）
 会 長：武田正之（山梨大学大学院医学工学総合研究部 泌尿器科学）
 会 場：ホテルチン鐘山苑（富士吉田市）
 問合せ：〒409-3898
 山梨県中巨摩郡玉穂町下河東1110
 山梨大学医学部 泌尿器科（深沢・野村・早川）
 TEL 055-273-9643 FAX 055-273-9659
 E-mail chiehaya@yamanashi.ac.jp
 rtvs_uro@res.yamanashi-med.ac.jp

●第15回 腎不全外科研究会

日 時：平成18年7月7日（金）～8日（土）
 当番世話人：酒井信治（信楽園病院）
 会 場：朱鷺メッセ〈新潟コンベンションセンター〉（新潟市）
 問合せ：〒243-0013
 厚木市泉町3-14 東友ビル5階
 (株)メディカル東友 コンベンション事業部（宮澤・小峯）
 第15回腎不全外科研究会事務局
 TEL 046-220-1705 FAX 046-220-1706
 E-mail endai@mtz.co.jp

●第10回 移植腎病理研究会学術集会

日 時：平成18年7月8日（土）
 会 長：武田朝美（名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター）
 会 場：未定
 問合せ：〒466-8650
 名古屋区昭和区妙見町2-9
 名古屋第二赤十字病院
 TEL 052-832-1121 FAX 052-831-0149